

タイトル	初めての日本画		
学校名	千葉県立磯辺高等学校	美術	市野 孝子
教材費	約500円程 (パネル代なし)	実施時間	20時間

1. ねらい

日本画は専門的で難しい印象である。しかし、最近は絵手紙などが流行しているせいか、道具なども手に入りやすく又、扱いやすくなってきている。具体的な物を丁寧に描いている美しい日本画は生徒たちにも人気があり描くことの面白さを学ぶことができる。また、日本画を通し日本文化を再認識させることもできる。

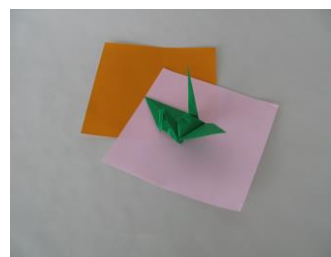
2. 材料・用具等

- ・鳥の子紙 (ドーサ引き済み). 水張りテープ. パネル(貸し出し・大きさはB4). 刷毛
- ・トレッシングペーパー. 念紙 (木炭+半紙). 赤ボールペン
- ・膠. 小匙. 水干絵の具. 顔彩. 胡粉. 岩絵の具. 墨. 面相筆. 彩色筆数本. 菊皿等皿類. 水入れ

3. 展開

(1) 下図の制作(5時間)

- ・日本画に相応しいモチーフを選択させる。形や色が簡潔で身近なモチーフが良い。
例：紅葉・折り鶴・富士山・花びらの少ない花など



- ・モチーフをスケッチするか、写真類をトレッシングペーパーで写しとるなどし、形を鉛筆で描き出す。描いた物を切り取って下図用紙(実物大)に配置しのり付けし構図を決める。
- ・構図が決まったら下塗りを塗った後色鉛筆で彩色しイメージまとめ曖昧な部分をなくす。



(2) 下塗り(1時間)

- ・和紙(鳥の子)の粗い目をつめ、絵の具の発色をよくするため下塗りをする。(胡粉を塗った後水干絵の具を塗るとより発色が良くなる)今回は水干絵の具のみで塗る。
- ・出来上がりのイメージと逆の色を選んで下塗りの色を選ぶ。色に深みが出るため。

(3) 下図写し・骨描き(2時間)

- ・下塗りした和紙が乾いたら、念紙(ねんし)を使い下図を丁寧に写す。(カーボン紙と同じ使い

方)*念紙は、半紙、トレッシングペーパーなどの薄い紙のうらに木炭を全体に塗ったもの。

- 写った下図に沿って面相筆を使い墨で輪郭をできるだけ細く描く。骨描き（こつがき）と呼ばれるこの線は彩色のとき大切な手がかりとなる。完全に乾いた骨描きの線は水に溶けない。

(4) 彩色(10 時間)

- 水干絵の具を細かく砕き、膠と混ぜて絵の具を作る
- 膠は、防腐剤の入った液膠を瓶で購入し瓶に書いてある指示通りに薄める。(吉祥・膠液画用は2～3倍に薄める) 濃いまま使うと乾いた後、収縮が強すぎて紙が裂けることがある。膠は気温が下がるとゼリーのように固まる。40度～50度くらいのお湯で湯煎して溶かす。
- 最初は一色のみを使い濃淡で立体感をつける。徐々に色を増やしていく。また色を重ね深みのある色を出す。太い筆から徐々に細い筆に変え細部まで描き込む。
- 片ぼかし、ぼかし、掘り塗り、付け立て、平ぬり、たらし込み、ためぬりなどの彩色法を工夫して使う。水は思っているよりたっぷり使う。(技法は手順を写真などで示すと効果的)
- 絵の具の粒を細かく砕く。乳鉢や乳棒は今回は使わない。*の手順で行う。



主な彩色道具



*わら半紙を8等分した紙などに絵の具の粒を出し、紙に挟んで空き缶などで圧力をかけ砕く。次に皿にあけ、膠を指でなめらかになるまで混ぜる。

- 白(胡粉)は砕いてから皿に山盛りにし、膠をすくなめに指で混ぜ団子状にまとめ、百たたくをする。団子を皿に100回程度たたきつけて十分に混合するようにする。また、胡粉は、乾くと白色が濃く不透明に強く出るので塗るときの分量に注意。(湿っている白は半透明で薄い色)

(5) 雰囲気作り(1 時間)

- 最後に岩絵の具で光沢のある絵の具を使い、華やかな雰囲気に仕上げる。金(ダープゴールドアフレア) 銀(パールアフレア)を使用。岩絵の具は半透明なので最後に使用。

(6) 仕上げ(1時間)

- ・ バックを整え、全体のバランスを見て調整する。
- ・ 漢字で名を入れ、落款を押し完成。落款印がない場合は手書きでよい。
(何回か別の紙に練習してから清書する)



(7) 参考資料

- * 画材と技法《同朋舎》 林功・箱崎睦昌（監修）河北倫明（総監修）
- * 花を描く 中島千波の日本画基礎講座 NHK 趣味悠々（教育テレビテキスト2002年）



4. 指導上の留意点

- ・ 絵の具・膠・和紙は、まとめて購入し人数で頭割りすると予算が安く上がる。
 - * さしあたり、鳥の子紙・膠・水干絵の具・胡粉・墨・岩絵の具(金、銀)を購入すれば、他は学校の道具で何とかできます。
- ・ パネルではなく和紙ボードを使用すると時間短縮できる。(しかし費用が割り増しとなる) 水張りの経験も新鮮なので、させた方がよい。
- ・ 骨描き用の筆は使わず面相筆を使用させる。
- ・ 絵の具は6人ぐらいのグループに分け、1人1色ずつ作り共同で使わせる。残った絵の具は数回使えるのでサララップで保存。長い時間放置すると状態が悪くなることもある。膠は必ず防腐剤の入っている物を使用。気温が低いと膠はゼリー状になるので、1, 2学期に行う方が管理が簡単。
- ・ 日本画は、基本水彩画と同じと考えてよい。
- ・ 色鉛筆での作業が大切。考えさせ描く対象をじっくり観察させてから本番にむかわせることが成功の鍵。初心者には抽象的な物、複雑な状態の対象物は描かせない。紅葉が一番良い。
- ・ 余裕があれば、三千本などの膠を溶かす作業を实践させ、より興味を引かせたい。 以上